

# 管理栄養士養成施設における「総合演習 I」に関する事例研究

南 屋 智 砂      遠 藤      恵      齋 藤      恵  
高 田 紗 恵 子      菊 地 和 美      岸      知 子  
隈 元 晴 子      田 中 洋 子      三 田 村 理 恵 子  
村 田 まり子

## A case study on “Seminar of Human Nutrition I” at training facilities for registered dietitians

Chisa MINAMIYA, Kei ENDO, Megumi SAITO, Saeko TAKADA,  
Kazumi KIKUCHI, Tomoko KISHI, Haruko KUMAMOTO,  
Hiroko TANAKA, Rieko MITAMURA, Mariko MURATA

### Abstract

The aim of this study was to assess how “Seminar of Human Nutrition I” courses were developed in registered dietitian training facilities across Japan with the goal of making future use of them in advance preparation for clinical practice.

The investigation method was based on an examination of the “Seminar of Human Nutrition I” syllabus as disclosed on the homepage of 137 schools on the list of registered dietitian training facilities across Japan in 2015.

The analysis revealed the following results.

The syllabus was provided on the homepages of 116 (84.7%) of the 137 registered dietitian training schools in Japan. “Seminar of Human Nutrition I,” consisting of students undertaking onsite training prior to clinical practice, was reported in 55 schools (47.4%), and 44 schools (80.0%) based student evaluation largely on participation in practical training and written reports rather than paper examinations.

The above findings revealed that “Seminar of Human Nutrition I” was used a subject for advance preparation for clinical practice in registered dietitian training facilities. In future, we would like to make use of the “Seminar of Human Nutrition I” course development methods from each registered dietitian training facility for the curriculum offered in this school.

## I. はじめに

公益社団法人 日本栄養士会・一般社団法人 全国栄養士養成施設協会による「臨地実習及び校外実

---

所属:

藤女子大学人間生活学部食物栄養学科

Fuji Women's University

習の実際(2014年版)<sup>1)</sup>によれば、臨地実習の学習目標として、「問題発見(気づき)、問題解決」と「専門的知識と技術の統合」の2項目が設定されており、事前準備ならびに知識の整理、研究課題の検討、事後教育の必要性が求められている。

また、栄養士法施行令第11条<sup>2)</sup>には、管理栄養士養成施設の指定基準が規定され、附則の別表第4には教育内容として、専門分野に総合演習2単位が位置づいている。管理栄養士・栄養士の教育<sup>3)</sup>によれば、総合演習の目標は「専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養うこと」として、2単位のうち、1単位は校外実習の事前・事後指導としても可と記載されている。したがって、管理栄養士養成施設においては、総合演習は2単位のうち、1単位は臨地実習の事前・事後教育の充実をねらった内容にしていると考えられている。そこで、本研究では、事前・事後指導として「総合演習Ⅰ」の内容について検討するために、全国の管理栄養士養成施設(以下、養成施設と略す)のシラバスを調査した。

## II. 目的・方法

本研究は、養成施設における臨地実習の事前・事後指導として「総合演習Ⅰ」がどのように展開されているかの検討を目的とし、今後の臨地実習事前準備に活かすことを目標として設定した。

養成施設におけるシラバスは、『平成27年度管理栄養士・栄養士施設一覧<sup>4)</sup>の管理栄養士養成施設』137校を調査した。解析はインターネットで養成施設ホームページに情報公開している総合演習のうち臨地実習の事前準備で1単位が示されている「総合演習Ⅰ」に該当する科目を取り上げて比較検討することにした。

また、解析は単純集計後、全国の管理栄養士養成施設を東北・北海道、関東、東海・北陸、近畿、中部・四国、九州地区の6地区に分類し、比較することにした。

## III. 結果および考察

### 1 地区別にみた「総合演習Ⅰ」

地区別にみた「総合演習Ⅰ」は表1に示したとおりである。総合演習のシラバスがインターネットでホームページに情報公開されている養成施設は、137校中116校であり、全体の84.7%を占めていた。なお、情報公開されているが、インターネット上だけではシラバスの詳細について判断がつかない養成施設は除外した。

シラバスの解析を116校について行った結果、「総合演習Ⅰ」が臨地実習事前準備科目として位置づけられていたのは55校(47.4%)であった。地区別に比較すると、東北・北海道では臨地実習事前準備科目として公開されていたのは全国平均より低かった(35.7%)。

一方、「総合演習Ⅰ」ではないが事前準備科目を設けていたのは81校(65.9%)であった。以下の解析は「総合演習Ⅰ」が臨地実習事前準備科目として位置づいている55校について行った。「総合演習Ⅰ」の開講学年は3年生が多く、41校(74.5%)であった。開講時期は前期が最も多く26校(47.3%)、次いで通年10校(18.2%)で後期は8校(14.5%)であった。単位数は平均 $1.4 \pm 0.8$ 単位、最大6.0単位、担当者数は平均 $4.8 \pm 3.0$ 人、最大18人、最小1人、開講回数は平均 $15.4 \pm 5.2$ 回であった。報告会を設けている養成施設は29校(52.7%)、設けていないのは18校(32.7%)、不明8校(14.5%)であった。評価方法は44校(80.0%)でレポートや出席状況など複合的であった。

また、「総合演習Ⅰ(事前準備)」の臨床栄養学領域の回数は平均 $3.6 \pm 3.5$ 回、給食経営管理領域の回数は平均 $4.8 \pm 4.0$ 回、公衆栄養学領域の回数は平均 $3.9 \pm 4.0$ 回であった。「総合演習Ⅰ(事前準備)」の実習先担当者の参加は10校(18.5%)であった。

表1-1 地区別にみた「総合演習Ⅰ」

地区	臨地実習事前 準備科目である (n=116)	「総合演習Ⅰ」 のほかに事前 準備科目があ る (n=116)	報告会の開講 がある (n=55)
東北・北海道	35.7	50.0	60.0
関東	42.4	63.6	64.3
東海・北陸	50.0	86.4	63.6
近畿	53.8	69.2	53.8
中国・四国	42.1	63.2	25.0
九州	44.4	44.4	25.0
合計	47.4	65.9	52.7

(%)

表1-2 地区別にみた「総合演習Ⅰ」(単位数、担当者数、回数)

地区	単位数	担当者数	回数	臨床栄養学 領域回数	給食経営管理 領域回数	公衆栄養学 領域回数
東北・北海道	1.0 ± 0.0	4.6 ± 1.2	13.6 ± 2.8	3.4 ± 1.9	4.4 ± 1.4	2.2 ± 1.7
関東	1.4 ± 0.5	4.2 ± 2.4	16.9 ± 5.4	3.5 ± 1.8	3.8 ± 1.9	2.7 ± 1.2
東海・北陸	1.5 ± 0.5	4.1 ± 1.6	18.5 ± 5.8	2.2 ± 2.1	5.0 ± 4.3	3.5 ± 1.8
近畿	1.7 ± 1.5	5.0 ± 2.4	11.2 ± 4.2	6.3 ± 6.2	6.3 ± 6.2	6.3 ± 6.2
中国・四国	1.3 ± 0.4	5.9 ± 2.9	14.8 ± 3.3	2.4 ± 1.6	5.8 ± 4.8	5.6 ± 4.0
九州	1.0 ± 0.0	6.5 ± 6.7	15.3 ± 0.4	0.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0
合計	1.4 ± 0.8	4.8 ± 3.0	15.4 ± 5.2	3.6 ± 3.5	4.8 ± 4.0	3.9 ± 4.0

平均±標準偏差 (数)

(n=55)

表1-3 地区別にみた「総合演習Ⅰ」(開講学期、開講学年、評価方法)

地区	開講学期				開講学年						評価方法			
	前期	後期	通年	不明	1年生	2年生	3年生	4年生	不明	その他	レポート	試験	複合方法	その他
東北・北海道	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0
関東	50.0	14.3	7.1	28.6	0.0	0.0	71.4	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	92.9	7.1
東海・北陸	36.4	9.1	18.2	36.4	0.0	0.0	81.8	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	90.9	0.0
近畿	46.2	7.7	23.1	23.1	0.0	7.7	46.2	15.4	15.4	15.4	0.0	0.0	76.9	23.1
中国・四国	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	87.5	0.0
九州	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
合計	47.3	14.5	18.2	20.0	0.0	1.8	74.5	10.9	5.5	7.3	3.6	1.8	80.0	14.5

(%)

(n=55)

## 2 「総合演習Ⅰ」で使用している教科書・参考書

教科書・参考書は、55校のうち31校で使用されており、平均1.7±1.3冊、最大7冊、最小1冊であった。使用されている教科書・参考書で多かったのは、表2-1のとおり、『臨地・校外実習のてびき』<sup>5)</sup>が5校であり、次いで、『臨地・校外実習書』<sup>6)</sup>が4校、『臨地実習及び校外実習の実際』<sup>1)</sup>、『臨地実習マニュアル—給食経営管理・給食の運営』<sup>7)</sup>、『管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—』<sup>8)</sup>がそれぞれ3校の順であった。その他、「総合演習Ⅰ」で使用している教科書・参考書には文章術ハンドブック<sup>9)</sup>など国語表現<sup>10)</sup>に関するものも使用されていた(それぞれ2校)。

表2-1 「総合演習Ⅰ」で使用している教科書・参考書（複数校で使用）

使用校数	複数の管理栄養士養成校で使用している教科書・参考書名
5校	木戸詔子・福井富穂編『臨地・校外実習のてびき』第2版, 化学同人, (2010)
4校	加藤昌彦・木村友子・井上明美『臨地・校外実習書』第3版, 建帛社, (2009)
3校	日本栄養士会・日本栄養士養成施設協会編『臨地実習及び校外実習の実際(2014年版)』(2014) 松崎政三・名倉秀子編『臨地実習マニュアル—給食経営管理・給食の運営』第2版, 建帛社, (2010) 日本栄養士会編『管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—』2016年度版, 第一出版, (2016)
2校	田中貞一郎・田中ひさよ『管理栄養士・栄養士になるための国語表現』萌文書林, (2012) 西川真理子『図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック』化学同人, (2011) 前田佳予子・高岸和子編『改訂 臨地実習ガイドブック』建帛社, (2016) 『日本人の食事摂取基準 2015 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書』菱田明・佐々木敏監修, 第一出版, (2014)

表2-2 「総合演習Ⅰ」で使用している教科書・参考書

区分	管理栄養士養成校で使用している教科書・参考書名
教科書	「それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書及び参考図書」
臨地実習ノート	京都府栄養士会編『栄養士・管理栄養士養成課程における校外実習要録』 相良多喜子他著『栄養士課程実習ノート』第6版, 医歯薬出版, (2010) 女子栄養大学臨地実習・校外実習センター編『臨地実習テキスト』 土江節子・中島泰子編『ガイドブック 臨地・校外実習』医歯薬出版, (2006) 長谷川輝美・永井徹編『ステップアップ臨地・校外学習』建帛社, (2016) 藤原政嘉・田中俊治・赤尾正編『臨地実習・校外実習ハンドブック』みらい, (2014) 平成28年度臨地実習ノート 『臨地実習ノート』岡山県立大学保健福祉学部栄養学科作成 寺本房子・渡邊早苗・松崎政三編『臨地実習マニュアル—臨床栄養学』第5版, 建帛社, (2014)
給食経営管理関係	実践給食実務研究会編『給食実務必須』第一出版, (2013) 韓順子・大中桂子『給食経営管理論』第一出版, (2016) 影山光代他著 日本給食経営管理学会監修『給食経営管理用語辞典』第一出版, (2015) 松月弘恵・韓順子・亀山良子編著『トレーニーガイド PDCAによる給食マネジメント実習』医歯薬出版, (2007) 丸山務, 高谷幸『調理施設の衛生管理』日本食品衛生協会, (2009) 三好恵子・山部秀子・平澤マキ編『給食経営管理論』第一出版, (2014)
公衆栄養関係	今木雅英編著『公衆栄養学実習 学外編』南山堂, (2010) 大阪公衆衛生協会・地域保健ノート, (2016)
臨床栄養関係	日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』第7版, 文光堂, (2013) 日本病態栄養学会編『認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック』第4版, メディカルビュー社, (2013) 片井加奈子・川上貴代・久保田恵『栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論実習』第2版, 講談社サイエンティフィク, (2015)
栄養調理六法	栄養調理関係法令研究会編『平成29年度版 栄養調理六法』新日本法規出版, (2016)
食品成分表	香川芳子監修『七訂食品成分表2016』女子栄養大学出版部, (2016)
国家試験準備関係	医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説2016』メディックメディア, (2016)

### 3 本学の『総合演習A』について

#### 1) 全体の内容

本学では臨地実習事前準備科目として、「総合演習Ⅰ」ではないが『総合演習A』を設けている。食物栄養学科『総合演習A』<sup>11)</sup>の授業は、表3のとおりである。

『総合演習A』の開講学年は3年生、開講時期は前期、単位数1単位、担当者数16人（非常勤講師、助手含む）、開講回数15回、評価方法は到達目標を測定する課題発表(70%)、授業への主体的参加状況(30%)である。『総合演習A』は必修科目であり、全員が履修する。

表3 2016年度 食物栄養学科『総合演習A』

NO.	講義日		領域	担当者	
	月	日		主担当教員及び非常勤講師	担当助手
1	4	15	全体オリエンテーション①	A・B・C・D・E・F	a・b・c・d
2		22	全体オリエンテーション②	A・B・C・D・E・F	a・b・c・d
3	5	6	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習①	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
4		13	臨床栄養学実習Ⅲ①	C	b・d
5		20	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習②	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
6		27	臨床栄養学実習Ⅲ②	C・I・J・K・L	b・d
7	6	3	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習③	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
8		10	臨床栄養学実習Ⅲ③	C・I・J・K・L	b・d
9		17	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習④	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
10		24	臨床栄養学実習Ⅲ④	C・I・J・K・L	b・d
11	7	1	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習⑤	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
12		8	臨床栄養学実習Ⅲ⑤	C・I・J・K・L	b・d
13		15	給食経営管理実習Ⅱ／公衆栄養学実習⑥	A・B・D・E・F・G・H	a・c・d
14		22	臨床栄養学実習Ⅲ⑥	C・I・J・K・L	b・d
15		29	全体オリエンテーション③	A・B・C・D・E・F	a・b・c・d

※教員は各回に出席、斜体は非常勤講師

本学の臨地実習は「臨床栄養学実習Ⅲ」、「給食経営管理実習Ⅱ」、「公衆栄養学実習」の3科目から2科目4単位を履修する選択必修科目である。「臨床栄養学実習Ⅲ」は必修、「給食経営管理実習Ⅱ」と「公衆栄養学実習」は選択であり、2016年度受講者の割合は「給食経営管理実習Ⅱ」60.0%、「公衆栄養学実習」40.0%であった。

また、表3に示したように15回のうち初めの1、2回と最終回に全体オリエンテーションを行った。全体オリエンテーション①では臨地実習の最終目標、学習目標／行動目標<sup>1)</sup>の説明、事前準備科目である当該授業を受けるに当たっての諸注意等、全体オリエンテーション②では学ぶ姿勢や守秘義務について、電話のかけ方、eメールのマナーについて等、全体オリエンテーション③では実習直前の最終指導として、実習の心構え、服装・身だしなみ、言葉づかいや礼儀、接遇について再確認を行い、学生へ臨地実習に臨む上での自覚を促した。

## 2) 領域別の内容

『総合演習A』における領域別の内容を表4および表5に示した。『総合演習A』における臨床栄養学領域、給食経営管理領域、公衆栄養学領域の回数はそれぞれ6回であった。

本学の『総合演習A』（領域別の内容）として、表4では臨床栄養学領域の授業内容、表5では給食経営管理・公衆栄養学領域の授業内容を示した。

## 3) 『総合演習A』における報告会

2016年度『総合演習A』の準備状況報告会を前期補講期間である8月4日に開催し、当該3年生と担当教員（非常勤講師含む）、担当助手が出席した。報告会は『総合演習A』の授業15回以外に補講として行った。

報告会では実習施設別に臨床栄養学領域、給食経営管理領域からそれぞれ4グループ、公衆栄養学領域から3グループの学生が「事前学習から学んだこと」、「実習で学びたいこと」、「実習準備の状況」等について5分程度、パワーポイントを使用して発表した。その後、質疑応答、担当教員からの講評があっ

表4 臨床栄養学領域の授業内容

回	授業日	内容
1	5月13日	オリエンテーション（臨床栄養学領域の臨地実習について、医療保険制度と臨床栄養） ゴールデンウイーク課題の提出
2	5月27日	講義（管理栄養士・栄養士倫理綱領、実習の流れ） 実習施設発表、履歴書の記入、予防接種について 自主研究テーマの検討 自主研究内容について担当教員より個別指導
3	6月10日	講義（自主研究について） 実習ノート配布、実習関係書類配布 自主研究内容について担当教員より個別指導
4	6月24日	講義（事前学習について、電話のかけ方） 自主研究内容について担当教員より個別指導
5	7月8日	講義（実習についての心構え、守秘義務、実習ノートの書き方） 検便提出について説明 自主研究内容について担当教員より個別指導
6	7月22日	講義（実習についての心構え、実習後の提出物） 貸出物について 自主研究内容について担当教員より個別指導

表5 給食経営管理・公衆栄養学領域の授業内容

回	授業日	給食経営管理	公衆栄養学
1	5月6日	講義（特定給食施設とは？、臨地実習および校外実習の実際（2014年度版）について）	オリエンテーション 講義（保健所と保健センター）
2	5月20日	講義（履歴書の記入、実習目標・自主課題の設定について、大量調理施設衛生管理マニュアルについて） 実習配当表配布、実習ノート配布	実習先の決定（配当表の配布） 実習先地域の情報把握（事前課題）
3	6月3日	実習施設別に担当教員より指導 実習目標・自主課題について	課題の発表とディスカッション 実習施設別に担当教員より指導
4	6月17日	講義（アンケート調査表作成の基本および集計方法、まとめ方について、管理栄養士・栄養士の法的根拠を再確認） 実習施設別に担当教員より指導	実習施設別に担当教員より指導
5	7月1日	講義（実習ノートおよび報告書の記載について、事後提出物について） 実習施設別に担当教員より指導	講義（乳幼児健診について） 事後提出物について 実習施設別に担当教員より指導
6	7月15日	講義（実習施設の管理栄養士による講義） 衛生検査について、実習携行物の配布	講義（特定給食施設とは） 実習施設別に担当教員より指導

た。学生は報告会に参加しての学びや気づきをリアクションペーパーにまとめ、授業の振り返りを行った。

#### 4) 『総合演習A』における学生の意識

『総合演習A』における学生の意識は授業改善アンケート（設問項目に対し5段階で評価する。「そう思う（5点）」「ややそう思う（4点）」「どちらともいえない（3点）」「あまりそう思わない（2点）」「そう思わない（1点）」の結果、「授業は満足できるものでしたか」という質問に対する回答の平均得点は

4.6点(演習科目の授業全体での平均得点は4.5点)と高く、学生の授業に対する満足度は高かった。一方、授業改善アンケートの自由記述では「提出物等の内容は他の科目との重複があった」などの声が挙げられていたことから、次年度に向けて授業内容を検討する際の参考をしたい。また、「授業に積極的に参加していましたか」という質問に対する回答の平均得点は4.8点(全体平均4.4点)と非常に高く、学生が積極的に臨地実習の事前準備に取り組んだことが伺える。

保育学科で学ぶ学生の意識調査<sup>12,13)</sup>によれば、実習指導を通して指導教員が考えたこと、感じたことには「①実習に対する意欲・態度に関すること、②実習前のボランティアに関すること、③日誌などの書き方や文章力に関すること、④免許に関すること、⑤自身の指導に関すること、⑥実習前に身につけて欲しいこと、⑦大学への要望」<sup>12)</sup>など多岐にわたっていた。さらに、より充実した実習とするためには<sup>13)</sup>、実習日誌の書き方や具体的な指導方法・内容及び心構えやマナーについての講義内容が事前指導で用意されることなどの必要性・有効性を取り挙げていることより、管理栄養士養成における総合演習にも同様のことが言えるものと考えられる。

#### 4 総合演習の今後の課題

総合演習について全国調査を行い、以下のことがみられた。

- ・総合演習の目標は「専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養うこと」であることから、総合演習がいくつもの開講科目になっていて、Ⅰ～Ⅳまで多岐にわたっている養成施設があった。
- ・「総合演習Ⅰ」以外に臨地実習事前準備科目があり、総合演習では別の内容になっている養成施設もみられた。
- ・総合演習による臨地実習事前準備科目と各領域(臨床栄養学実習、給食経営管理実習、公衆栄養学実習)の準備科目が別途開講されている養成施設もあり、内容が重複しているなどシラバス上では確認することが困難であった。
- ・総合演習をシラバス上で公開されている情報では判断が難しいこともあった。

「今後、本学でのシラバス作成に活かしたい内容」としては、履修に関する特記事項では予習・復習の必要性などが挙げられていた。さらに、学生の自覚については「受講生へのメッセージ」を記載している養成施設もあった。養成施設によって開講されている総合演習について、今後は「総合演習Ⅰ」だけでなく、シラバス全体を調査してまとめ、本学の『総合演習A』のシラバス作成の際などに、参考としたい。

#### IV. おわりに

本学食物栄養学科必修科目である『総合演習A』は、これまで臨地実習の事前準備に関わる内容を取り入れてきた。担当は臨地実習の担当者によって構成され、全体での展開の他、実習施設ごとのグループまたは個人で実習課題に取り組む演習を行うことにより、深く学び、臨地実習に向けた準備ができるように配慮している。今回の全国調査により、総合演習の内容が養成施設によって多岐にわたっていることも把握できた。一方、臨地実習事前準備のあり方を検討する際の参考意見も多く見受けられた。このような全国調査結果をもとに、今後のカリキュラムに活かしていきたい。

#### 要約

本研究は、全国の管理栄養士養成施設における「総合演習Ⅰ」がどのように展開されているかの検討を目的として、今後の臨地実習事前準備に活かすことを目標に設定した。調査方法は、平成27年度全国管理栄養士養成施設一覧に掲載されている137校を対象として、ホームページに情報公開している履修ガイド(シラバス)により、「総合演習Ⅰ」を検討した。解析は「総合演習Ⅰ」の項目について単純集計

後、全国管理栄養士養成施設を東北・北海道、関東、東海・北陸、近畿、中部・四国、九州地区の6地区に分類して、比較した。

調査結果は以下のとおりである。

- 1 履修ガイド（シラバス）がホームページに情報公開されていたのは、全国管理栄養士養成施設137校中116校であり、全体の84.7%を占めていた。「総合演習Ⅰ」が臨地実習の事前準備をする内容で開講されていたのは47.4%、担当者数は平均4.8±3.0人、評価方法はペーパー試験ではなく、レポートや演習の参加・出席状況などを重視している施設が多かった。「総合演習Ⅰ」の開講学年は3年生、開講時期は前期が最も多かった。
- 2 「総合演習Ⅰ」で使用されている教科書・参考書は、平均1.7±1.3冊であり、教科書で用いられている施設数が多かったのは、『臨地・校外実習のてびき』などが挙げられていた。教科書・参考書には文章表現に関するハンドブックも使用されていた。

以上、全国調査結果により、管理栄養士養成施設では臨地実習の事前準備科目として「総合演習Ⅰ」が位置づけられていることを把握できた。今後、それぞれの管理栄養士養成施設における「総合演習Ⅰ」の授業展開方法などを本学で開講しているカリキュラムに活かしていきたいと考えている。

## 参考文献

- 1) 公益社団法人 日本栄養士会・一般社団法人 全国栄養士養成施設協会編『臨地実習及び校外実習の実際（2014年版）』p.15（2014）
- 2) 栄養調理関係法令研究会編『平成29年度版 栄養調理六法』新日本法規出版，p.34（2016）
- 3) NPO 法人日本管理栄養士・栄養士の夢編『管理栄養士・栄養士の教育—専門性の向上を目指して—』建帛社，p.24（2011）
- 4) 一般社団法人全国栄養士養成協会『平成27年度管理栄養士・栄養士施設一覧』全栄協月報第663号 p.11-19（2015）
- 5) 木戸詔子・福井富穂『臨地・校外実習のてびき』化学同人，（2010）
- 6) 加藤昌彦・木村友子・井上明美『臨地・校外実習書』建帛社，（2009）
- 7) 松崎政三・名倉秀子編『臨地実習マニュアル—給食経営管理・給食の運営』建帛社，（2010）
- 8) 日本栄養士会編『管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—』2016年度版，第一出版，（2016）
- 9) 西川真理子『図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック』化学同人，（2011）
- 10) 田中貞一郎・田中ひさよ『管理栄養士・栄養士になるための国語表現』萌文書林，（2012）
- 11) 藤女子大学：履修ガイド2016履修の手引き・シラバス人間生活学部，p.468-469（2016）
- 12) 池田浩明・小川透・武石詔吾：特別支援学校の教育実習における学生の意識について(1)，藤女子大学紀要第48号 p.85-89（2011）
- 13) 池田浩明・小川透・武石詔吾：特別支援学校の教育実習における学生の意識について(2)，藤女子大学紀要第50号 p.89-93（2013）